

平成29年度地域で決める学校予算事業第1回推進懇話会 意見の概要

開催日時	平成29年9月13日（金）10時00分から11時30まで
開催場所	市役所北棟5階20会議室
意見等を求める内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度および平成29年度「地域で決める学校予算事業」の奈良市の取組について</li> <li>・文部科学大臣表彰の推薦について</li> <li>・平成30年度「地域で決める学校予算事業」のプレゼンテーションと意見交換について</li> </ul>
出席者	参加者4人 事務局8人
開催形態	公開（傍聴人0名）
担当課	学校教育部地域教育課 地域学校連携係

意見等の内容の取り纏め

≪本会議の目的≫

地域で決める学校予算事業の継続推進のため、事業の方針、内容、成果、課題などについて、助言、意見を求める。

≪事務局による事業説明の概要≫

①平成28年度の取組と、アンケート調査結果（経年比較）について報告

②平成29年度の取組と、総合コーディネーター連絡会について報告

③文部科学大臣表彰の推薦について

平成29年度文部科学省大臣表彰推薦活動：京西中学校区地域教育協議会

→文部科学省より、10月末から11月初旬にかけて、表彰の可否結果が連絡される予定

④平成30年度地域で決める学校予算事業のプレゼンテーションと意見交換について  
事務局の説明後、意見を徴収。

■意見の概要

平成30年度地域で決める学校予算事業のプレゼンテーションと意見交換について

【提案事業要項】

①地域教育協議会の取組み広報プラン

②コーディネーター等の人材育成プラン

③放課後などの学習支援プラン及び教育課程などの学習支援プラン

④公民館または社会教育施設との連携プラン

▶③の「教育課程など～」の表記は、注意を払うべきである。教育課程について、地域の方への説明及び理解が進んでいない。単に、地域の人を集めて、学校教育を行うということではない。

▶③の「教育課程など～」の部分について、教育課程を決めていく過程が、あくまで教師が主体でありながら、地域の力を借りていく、というような方向づけができるような表記がうまくできればよい。

例えば「教育課程に応じた支援活動」等に変更した方がよいのではないか。

▶プレゼンテーションがアイデアコンテスト化してしまっている。公の予算で活動していることに対して、目をそらさないでもらうためにやっている。予算の組み立て方を評価する、ということ意識してもらわなければならない。

▶全協議会がA評価になるのでは、見直しが必要。上位いくつかの協議会にはプラスアルファの委託料を配当するなど、地域がやる気を出して計画書を作成するようにしていただきたい。

▶アンケート調査結果から見受けられる、最も大きな課題は「教育委員会と学校や地域社会との連携が不十分」である。それぞれの協議会がレベルアップしてきたからこそ、教育行政は、来年度の評価の観点をどこにおくのか軸足を定めていくべきである。

課題解決型か、良いところを伸ばしていくのかの方針を定め、コンセプトを立てて評価基準を再検討する時期ではないか。

▶アンケート調査結果では、「教職員の理解が不十分」が、学校園教職員、地域住民ともに伸びている。教職員の理解を促すには、教員が地域の力を借りていく発想を生み出せるよう、上手に促すことが必要である。

▶コーディネーターの仕事のうちの一つは、教職員の理解を促すことである。一方で、教育行政は教職員に対して、学校教育は地域の力を借りなければやっていけない時代である、ということ促していかなければならない。コーディネーターと教育行政、この二者が同時に働きかけて、教職員の意識を変えていくことが必要である。

▶例えば、教育委員会が「交流の集いに参加する教職員の数を去年の3倍にする」などの目標を掲げ、それを実現するためのアイデアを地域に投げかけていくなど、切り込んでいってはどうか。

▶今年度の第1回奈良市の地域教育を考える懇話会で「各協議会が作成する計画書のめざす子ども像が、“スローガン”としてはいいが、もう少し分節化し、活動がどう関わっているのか議論されてもいいのでは」との意見が出ていた。提案事業要項に「めざす子ども像の具体化プラン」があってもよいのではないだろうか。

▶協議会が提案する各事業が「めざす子ども像」とどのように関わるのかを記述できるよう、計画書のセルの枠を大きくしてはどうか。